

農民連ふるさとネットワークから伝えられた、台風被害を受けた愛媛産直協同への「緊急支援のお願い」を紹介します。

愛媛ミカンのSOS 台風で海水を浴びる

日本列島を大型台風が襲い、各産地で深刻な被害が出ていることが伝えられています。

愛媛では特に塩害被害がひどく、塩水をかぶったみかんの木は真っ黄色になってかれてしまい、再生産不可能であることが確実視されています。台風が去った後も、出荷を目前に控えた極早稲みかんから、年明け出荷の中生みかんまで一様に、次々とちぎれ落ちてしまっています。

落下してしまったみかんは加工にもまわせず、廃棄する以外、道がありません。日に日に落下するみかんを目の当たりにして、被害を受けた組合員からは「これを機に、もう生産をあきらめよう」という声すら出されて

います。来期に少しでも希望の道が残せるよう、樹に残っているみかんだけでも、大至急出荷したいというのが生産者の思いです。

*

このみかんは、樹が海水を浴びて壊滅状態にある産地のものです。本来の出荷時期は10月頃なのですが、すでに実が落ち、樹が枯れ始めています。みかん生産者もあきらめかけ

1箱^{10kg}1500円。ご支援を!

上記のような事情ですから、味や品質は期待できないかもしれませんが、それでも、応援の気持ちを込めて購入したいと思います。ご注文は事務局まで。送料の関係ですが、20箱以上まとまるようなら直送できますので、その旨お知らせください。



小川町にある平和農園で恒例の稲刈り交流会が開かれました。今年は、田んぼに隣接する自衛隊の基地で航空ショーあるとかで、ひっきりなしの爆音。すぐ隣の人との話もできません。はたして地元で暮らす人の身になってみると・・・

ていますが、少しだけでも再生産の道が開けるようにと何とか皆さまのご協力を頂きたいと思います。出荷が早まったために本来の味ではないかもしれませんが、これまで真心を込めて育てました。どうかご協力をお願い申し上げます。

農機具の修理をしながら思う 蚊とマムシとイラクと日本と (後)

昨年の3月、水戸市で開かれた「アメリカのイラク攻撃に反対する集い」に参加して、伊藤政子さんという方の講演を聴きました。伊藤さんは、「アラブの子どもたちと仲よくする会」を主宰して、永くイラクと関わってきて、たとえばこんな実感を語っていました。

“イラクに大量破壊兵器なんてありっこないわよ。91年の湾岸戦争のときにも、米軍の爆撃機にやられ放題で、たまにイラク軍の反撃を目にしても、砲弾はヒョロヒョロと飛んでいくだ

け、とても戦争なんて呼べる代物などではなかった。さらに経済制裁で、医薬品すら入ってこなかったんだから。なまじっか半端な兵器を持っているから、大国に口実を与えてしまう。いっそのこと軍備なんか全廃しちゃえば、侵略をされないですむのに”

というような報告を、コンバイン修理でとりこみ中の手を刺してくる蚊をたたきつづしながら思い出したのですが、人びとの思いや暮らしを踏みつづして平気な現実もあるわけで・・・

イラクの大量破壊兵器という戦争



の口実はウソだったことをアメリカが公式に認めました。また国連のアナン事務総長が、イラク戦争は国際法に照らして違法だったと発言しました。でも、侵略戦争を支持した自民党や公明党は知らんふりを決め込んで、そして民主党まで平和憲法を捨てちゃおうと今たくらんでるんだよねえ。